

\*\*\*\*\*

## 私が初めて聴いたときに衝撃を受けた曲

\*\*\*\*\*

クラシック音楽の様々な曲の中には、最初から違和感なく受け入れられて十分に楽しめるものや、最初はよく把握できずに何度も聴き込んでいくうちに次第に馴染んでくるものもあれば、初めて聴いたときに大きな驚きや感動を覚えるものもあるかと思います。

また、曲目の中には、一般的にはよく知られているものでも、ある人にとっては長い年月出会うことがなく、かなりの年齢になってから初めて出会う曲もあると思います。今回は、誠に私的な選曲で申し訳ありませんが、私にとってかなりの年齢になってから初めて出会った曲も含めて、最初に聴いたときに驚きや感動を覚えた曲の中からいくつかのものを選定させていただきました。

1 曲目のヤナーチェクの弦楽四重奏曲第 1 番「クロイツェル・ソナタ」は、2007 年 9 月 29 日につくば市のパホールで初めて出会い、非常に驚きました。次のベートーヴェンのバイオリン・ソナタ第 9 番「クロイツェル」は、15 歳の頃に友達の家で初めて聴いて圧倒され、その後もよく聴きました。

3 曲目のバルトークの「弦楽のためのダイヤモンド」は、20 歳のときに友達の家で初めて聴いて、驚きました。4 曲目のシューベルトの弦楽四重奏曲第 14 番「死と乙女」は、たいへん有名な曲ですが、恥ずかしながらこの曲の存在を 60 歳になって初めて知りました。CD から流れてくる曲を最初に耳にしたときの驚きと感動は、私にとって音楽を聴き始めてから最大級のものでした。

-----\*\*\*\*\*-----

### レオシュ・ヤナーチェク(1854~1928)

弦楽四重奏曲第 1 番 木短調 「クロイツェル・ソナタ」 第 1~第 4 楽章 (約 20 分)

1923 年作曲

演 奏

ジュリアード弦楽四重奏団

1995 年録音

### ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)

バイオリン・ソナタ第 9 番 イ長調 「クロイツェル」 第 1・第 2(前半)・第 3 楽章

1803 年作曲

バイオリン イツァーク・パールマン

(約 25 分)

ピ ア ノ ウラディーミル・アシュケナージ 1973 年録音

-----\*\*\*\*\*-----

休 憩

### ベラ・バルトーク(1881~1945)

弦楽のためのダイヤモンド

第 1 楽章・第 3 楽章 (約 17 分)

1939 年作曲

演 奏

オルフェウス室内管弦楽団

1985 年録音

### フランツ・シューベルト(1797~1828)

弦楽四重奏曲第 14 番 二短調 「死と乙女」

第 1~第 3 楽章(第 4 楽章は未定)

(約 30 分)

1824 年作曲

演 奏

アルバン・ベルク四重奏団

1985 年録音